

■研究集会（入場無料・一般入場可）

2件の研究委員会が、研究成果の発表や討論会を行います。また3件のランドマーク論文紹介を実施いたします。開催日時・場所については、各研究集会の概要をご参照ください。

7月8日（水）（第1日目）

9:45～11:30（2階小ホール）

名 称	ランドマーク論文紹介セッションⅠ		
主 催	ランドマーク論文紹介検討有志メンバー		
集会形式	発表		
概 要	我が国のコンクリート工学の発展に大きく貢献し、ランドマークとして位置づけられる顕著な成果を残した論文を複数選出し、それらの内容について紹介する。過去の優れた論文について、広く会員に理解してもらう機会を設けることが趣旨である。それと同時に、修士・博士課程に在籍する学生および若手研究者がランドマーク論文に触れることで、オリジナリティへの尊重、原理原則への回帰、研究の累積・歴史への理解、新しい分野を開拓する研究への強い動機付けとなることを期待すると共に、未来の研究者、技術者たる彼ら・彼女らを魅惑し、幅広く奥の深いコンクリート工学の世界への一歩を踏み出すようなきっかけになることを希望している。	主なプログラム	【論文紹介セッションⅠ】 我が国におけるコンクリート工学の夜明け、黎明期（司会：丸山一平） 1. ランドマークセッションの趣旨について（石田哲也） 2. 鉄筋コンクリートの耐久性研究の始まり―濱田稔博士らの研究（兼松 学） 3. 最高強度コンクリートの開発・製造―吉田徳次郎博士の研究（石田哲也） 4. コンクリートの収縮と亀裂―大野和男博士の研究（丸山一平）

13:45～15:30（2階小ホール）

名 称	ランドマーク論文紹介セッションⅡ		
主 催	ランドマーク論文紹介検討有志メンバー		
集会形式	発表		
概 要	午前のセッションⅠに続き本セッションでは、コンクリート構造の分野において、我が国の研究成果により提案された設計式を3つ選び、先達の特筆すべき研究を紹介する。研究内容の紹介だけでなく、その後の研究の進展や、今後の進むべき方向についても話題提供し、議論する場となることを期待している。	主なプログラム	【論文紹介セッションⅡ】 日本コンクリート工学発展期の設計式（司会：細田 暁） 1. 角田先生の曲げびび割れ幅算定式と石橋忠良博士らによる修正（細田 暁） 2. 岡村先生・檜貝先生のせん断耐力算定式と二羽先生による修正（斉藤成彦） 3. 建築のせん断耐力算定式―実験式（荒川式）とその後の展開（前田匡樹）

7月9日（木）（第2日目）

9:15～12:15（2階小ホール）

名 称	「コンクリート施工技術の基本」に関する討論会 ～ポンプ施工・打込みおよび締固め・養生・初期欠陥の補修～		
主 催	コンクリート基本技術調査委員会（委員長 山本泰彦） コンクリートポンプ施工技術調査委員会（委員長 十河茂幸）		
集会形式	圧送工法ガイドラインの紹介，施工技術の基本に関するパネル討論		
概 要	信頼されるコンクリート構造物の施工に対して、ポンプ施工，打込み・締固め，養生および初期欠陥の補修技術などは，構造物の品質を左右するにもかかわらず，多くの課題を抱えています。 この研究集会では，施工技術の基本に立ち返り，現状の課題を挙げながらそのあり方について討論します。 ポンプ施工技術調査委員会では，その活動成果である「コンクリート圧送工法ガイドライン」を紹介し，さらに残された課題について討論します。 施工基本技術調査委員会では，施工技術のうち，打込みおよび締固め，養生，および初期欠陥の補修技術を取り上げ，それらの課題を例示し，施工技術の本質について参加者とともに，そのあり方を討論します。		
		主 な プ ロ グ ラ ム	【趣旨説明】 山本泰彦（筑波大学名誉教授） 【第一部 コンクリートポンプ施工技術】 ・コンクリートポンプ施工技術委員会の活動概要：和美廣喜（島根大学） ・圧送工法ガイドラインの概要説明：中田善久（日本大学） ・圧送技術に関するパネル討論：浦野真次（清水建設），柳井修司（鹿島建設），太田達見（清水建設），岡本圭市（岡本建設重機）ほか 【第二部 コンクリート施工技術の課題とあり方に関する討論】 ・基本技術調査委員会活動概要の説明および司会：舟橋政司（前田建設工業），並木 哲（大成建設） ・コンクリートの打込みおよび締固めのあり方：近松竜一（大林組） ・コンクリートの養生のあり方：久田 真（東北大学） ・初期欠陥の補修技術のあり方：松田芳範（東日本旅客鉄道） 【閉会挨拶】 十河茂幸（大林組）

13:15～16:15（2 階小ホール）

名 称	コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA —その特徴と解析事例の紹介—		
主 催	コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会（委員長 武若耕司）		
集会形式	報告会および講習会		
概 要	本委員会は、平成 14 年より 2 年間にわたって研究委員会所管の委員会として活動した「コンクリート構造物の長期性能照査支援モデル研究委員会」を母体とし、平成 16 年度よりコンクリート構造物の長期性能シミュレーションプログラム：LECCA（Life time Evaluation Program for Concrete Structures by Computational Analysis）シリーズの開発のための活動を進めてきました。LECCA シリーズの評価対象は、大きく「環境外力」、「材料劣化」、「構造性能」に分けられますが、この度、既に公開済みの【環境外力評価ソフト：LECCA-1】に続く第 2 弾として【RC 構造物の劣化シミュレーションソフト：LECCA-2】をリリースする運びとなりました。 本研究集会では、本委員会の活動および LECCA シリーズの開発経緯を報告すると同時に、今回発売する【LECCA-2】の各種機能や各種条件下における劣化進行を予測した試算例などをご紹介します。さらに、会場に用意する数台のパソコンで、リリース直前の LECCA-2 を参加者の皆さんに実際に使って頂き、その機能と操作性ならびに予測結果の妥当性等を確認して頂きます。	主 な プ ロ グ ラ ム	【委員会活動の経緯】 武若耕司（鹿児島大学） 【LECCA シリーズの概要】 山口明伸（鹿児島大学） 【LECCA-2 の機能紹介と試算例】 ・ LECCA-2 の適用範囲とその特徴 野口貴文（東京大学） ・ コンクリートモデルの設定 加藤佳孝（東京大学） ・ 塩害劣化予測 宮里心一（金沢工業大学） ・ 中性化進行予測 兼松 学（東京理科大学） ・ 凍害進行予測 長谷川拓哉（北海道大学） ・ 補修計画の検討 中村成春（宇都宮大学） 【今後の開発計画】 武若耕司（前掲） <併せて、使用体験会を実施します>

7月10日（金）（第3日目）
9:15～11:00（2階小ホール）

名 称	ランドマーク論文紹介セッションⅢ		
主 催	ランドマーク論文紹介検討有志メンバー		
集会形式	発表		
概 要	我が国のコンクリート工学の発展に大きく貢献し、ランドマークとして位置づけられる顕著な成果を残した論文を複数選出し、それらの内容について紹介する。過去の優れた論文について、広く会員に理解してもらう機会を設けることが趣旨である。それと同時に、修士・博士課程に在籍する学生および若手研究者がランドマーク論文に触れることで、オリジナリティへの尊重、原理原則への回帰、研究の累積・歴史への理解、新しい分野を開拓する研究への強い動機付けとなることを期待すると共に、未来の研究者、技術者たる彼ら・彼女らを魅惑し、幅広く奥の深いコンクリート工学の世界への一步を踏み出すようなきっかけになることを希望している。 本セッションでは、コンクリートの耐久性問題について、最近、あらためて見聞するようになった右に示す3つのテーマに対する、先達の特筆すべき研究を紹介する。その時代の社会事情によって顕在化する問題に直面するとき、原点に戻ることの重要性を、今、あらためて考える機会としたい。	主なプログラム	【論文紹介セッションⅢ】 今日的な耐久性問題に対する先駆的研究（司会：今本啓一） 1. 骨材の収縮（今本啓一） 2. 近藤先生、大門先生によるセメント化学の体系化（斎藤 豪） 3. 耐久性および構造性能の経時変化の評価（山本貴士）